

**Q5：学校と地域が目標やビジョンを共有するための手立てが知りたい。**

A： 「地域とともにある学校」づくりに向け、学校と地域が目標を共有する手立てとして「熟議」が挙げられる。

### 1 熟議とは何か。

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら課題解決を目指す対話のことで、活発な議論により、的確に多くの人の意見を反映することができる。

### 2 熟議の具体的なプロセスは。

以下のようなプロセスを経ることで、「地域でどのような子どもを育てていくのか」や「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有する。

- ①多くの当事者（保護者、教職員、地域住民等）が集まる。
- ②「学校や地域の課題」を共有する。
- ③課題について学習・「熟慮」し、「議論」をする。
- ④互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる。
- ⑤それぞれの役割に応じた解決策が洗練される。
- ⑥それぞれが納得して自分の役割を果たすようになる。



### 3 熟議はどのように進めればよいか。

熟議の進め方に決められた型はないが、展開例を以下に示す。

※テーマ例…「子どもたちがどう育ってほしいか」「学力を向上させるには」  
「学校と地域と一緒にやれることは」 など

- ①オリエンテーション …熟議開催に至った経緯を確認する。
- ②テーマに係る資料の共有…テーマについての知識・背景を共有する。
- ③熟議（前半） …自己紹介をする。  
付箋紙を用いて意見（思い）をたくさん出す。
- ④熟議（後半） …前半で出た意見について、方向性をもって話し合う。
- ⑤グループごとの発表 …各グループ1分程度でまとめ、全体で発表する。
- ⑥終わりのあいさつ …今後の話合いの場をどこで持つかを提案する。

**「熟議」で提案されたプランを、課題解決に向けた具体的実践につなげていく**

### 4 熟議とともに、備えるべき機能はあるか。

地域とともにある学校の運営に備えるべき機能として、「熟議」とともに「協働」「マネジメント」が挙げられる。

#### 「協働」

熟議で共有したビジョンや目標の体制に向けて、力を合わせて「子どもたちのため」に取り組む。「できることから協働を始める」ことで、徐々に多くの人が関わる協働体制が構築されていく。

#### 「マネジメント」

協働の中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと教職員全体がチームとして力を発揮できるよう学校と保護者・地域住民等を有機的に結び付け、共通の目標に向かって動き出す能力や、学校内に協働の文化を作り出す組織としての「マネジメント」力を強化する必要がある。

芳賀教育事務所ふれあい学習課としても、「地域とともにある学校」づくりの推進に向け、「熟議」に関する職員研修や、実施の際の運営等、支援していく。

#### 【参考資料】

・コミュニティ・スクール2017～地域とともにある学校づくりを目指して～ H29 文科省